宮城県生協連情報誌
2020.09.03【年6回発行】

COOP Calendar

9月号
September 2020
Vol.161

冬木勝仁みやぎ生協理事長より村井嘉浩知事に第1次集約分の「新型コロナウイルス感染症寄附金」を贈呈

CONTENTS

県連役員エッセイ……1
宮城県生協連理事　増田　昌彦
（宮城労働者共済生協専務理事）
「コロナ禍における環境変化に向けて」

会員生協だより……2
みやぎ生活協同組合
生活協同組合あいコープみやぎ
東北大学生活協同組合
東北学院大学生活協同組合
宮城教育大学生活協同組合

協同のとりくみ……7
地産地消のとりくみ……8
平和のとりくみ……9
環境のとりくみ……10
消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城の活動…11
NPO法人　介護・福祉サービス非営利団体
ネットワークみやぎの活動……12

適格消費者団体 認定NPO法人消費者市民ネットとうほくの活動…13
宮城県ユニセフ協会の活動……14
公益財団法人　MELONの活動……15
新聞記事紹介……16
資料……22

■宮城県生協連の状況（2019年度末現在）　●会員数…16団体　●会員生協組合員数…108万4千人　●会員生協出資金合計…468億円　●会員生協事業高合計…1,162億円

コロナ禍における環境変化に向けて

宮城県生協連理事　　増田　昌彦

（宮城労働者共済生活協同組合専務理事）

過日の 2020 年 7 月 30 日（木）に、「宮城労働者共済生協」の第 64 回総代会ならびに連合会としての「こくみん共済 coop＜全労済＞宮城推進本部」の代表者会議が開催され、全議案が承認されました。今回の総代会ならびに代表者会議においては、代議員への議案書事前配布とともに書面議決書による議案の賛否をおこない、当日出席代議員を大幅に縮小しての開催でした。

総代会および代表者会議の様子

宮城労済生協およびこくみん共済 coop＜全労済＞の事業活動は、大きく 2 つのチャネルで展開しています。

ひとつは労働組合を中心とした組織化されている組合員への取り組みとする職域領域と、ひとつは宮城県内の個人に対して保障を提供する地域領域となっています。

事業年度は 6 月 1 日が開始となっており、年度末に向けての展開をはかっているところに新型コロナ感染症が拡大し、宮城労済生協としての感染症対策とともに、職域への訪問自粛や共済ショップへの来店者減少等、事業への影響が生じました。緊急事態宣言解除後に少しずつ回復してきた共済ショップへの来店者数も、再度の感染拡大により元に戻ってしまいました。

目で見て、手に取ることのできない共済を、組合員が理解し納得して利用いただくためには、保障や共済に関する相談、加入内容の点検、最適な保障の設計提案や共済金の支払としてお役立ちができる現場調査など、組合員と直接接点をもって安心を提供していくことを大事にしてきました。職域・地域に共通して対面手法がそのひとつでした。

生協内部の諸会議等は感染症対策を講じての対応であったり、テレビ会議形式での対応が進んできていますが、対面場面では感染症対策だけでは不安に思い遠慮される組合員への対応が不可欠となります。

組合員に安心して共済を利用いただくために、電話による応対やホームページ機能の拡充に加え、SNS をこれまで以上に活用していく手法を組み込むことで、新しい生活様式に相対した新しい業務様式の取り組みを進めていきたいと考えています。

こくみん共済 coop＜全労済＞公式 HP より

会員生協だより

みやぎ生協

●「新型コロナウイルス感染症対策寄附金」を宮城県へ贈呈

5 月から宮城県では、新型コロナウイルス感染症に起因する諸問題の解決に向けて幅広く活用する「新型コロナウイルス感染症対策寄附金（略称：コロナ寄附）」を県民に広く呼びかけています。

みやぎ生協では、5 月 23 日から 6 月 20 日まで、宮城県内の店舗や共同購入で、メンバー（組合員）と職員に寄付を呼びかけました。

7 月 10 日（金）冬木勝仁理事長より、第 1 次集約分として 1,687,716 円を、宮城県庁において村井嘉浩知事に直接贈呈いたしました。なお最終集約は、1,790,882 円となりました。

村井知事から、協力いただいたメンバーの皆さんへの感謝と、ひっ迫する医療機関への備品の提供をはじめ、宮城県の施策に活用する予定であることが話されました。

（生活文化部　伊藤浩子）

《宮城県からのご案内》
ご協力をお願いします

新型コロナウィルス感染症対策寄附金
（略称：コロナ寄附）

＜振込先銀行名＞
七十七銀行　県庁支店
＜口座番号＞
普通口座　5013443
＜受取人口座名義＞
新型コロナウイルス感染症対策
寄附金　宮城県知事　村井嘉浩

※七十七銀行各店窓口での振込については手数料がかかりません。
※詳しくは宮城県の HP をご覧下さい。
https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/syoubou/korona-kihu.html

● 災害時における応急生活物資の供給協定締結自治体と定期懇談会を開催

8 月 4 日（火）みやぎ生協文化会館ウィズにおいて、災害時における応急生活物資供給協定を締結している自治体との懇談会を開催しました。今回で 7 回目となりますが、各自治体より総勢 36 人が参加しました。

当日は、宮城県総務部危機対策課地域防災班の横田敬様より「災害時における県の取り組みと令和元年東日本台風への対応」、大崎市総務部防災安全課の門脇博様より「令和元年東日本台風の対応状況～大崎市の事例」の報告があり、大変参考になりました。また、門脇様から今後の課題について報告があり、自治体の皆様と共有することが出来ました。

みやぎ生協からは、当組合の BCP と自治体からの物資要請の対応について報告させて頂き、大規模災害が発生した際、当組合が事業を回復・継続し、社会的責任の上でどのような役割を発揮していくのかを、自治体の皆様と確認させていただきました。

次に東北大学災害科学国際研究所の丸谷浩明教授より、「事例報告を受けてのアドバイスと風水害への対応の留意点」の学習講演があり、近年の風水害による傾向とそれに伴う再発防止策について報告を頂き、大変参考になりました。

今回の懇談会は、新型コロナウイルス感染拡大防止により、グループ討議を中止し、質疑応答は全体で行い、メールでもお受けすることにしました。

今回頂いた意見や要望等を、今後の取り組みに活かしてまいります。

（機関運営部課長　中塩晴彦）

会員生協だより

生協あいコープみやぎ

● コロナ禍で深まる貧困、福祉団体に食品提供

生協あいコープみやぎでは、組合員全員が参加するたすけあいの仕組み「ジョイケアシステム」があり、組合員同士が日常生活のちょっとした困りごとを助け合い、地域福祉に貢献する活動を進めています。

日頃からジョイケアシステムが継続支援をしている団体に、新型コロナウイルス感染拡大の影響を電話で聞き取り調査を行ったところ、「日々の食事に困っていて、マスクや消毒液まで手が回らない方が多い」「ネットカフェにいた方が今までのように仕事がないのでいられなくなり、路上生活を余儀なくされている。今後もっと増えてくるのでないか」等という回答が寄せられました。

食材を提供　㊧仙台夜まわりグループ㊨ふうどばんく東北 AGAIN

なかでも緊急性の高い方々への支援をされている「仙台夜まわりグループ」や「ふうどばんく東北 AGAIN」を通じ、ジョイケアシステム拠出金の一部で用意したパンや缶詰、スープなど、すぐに食べられる食材を中心に支援品をお届けしました。両団体には、今すぐに支援が必要な方々から、連日たくさんの SOS が届くそうです。

お届けした支援品は、食材を詰め合わせて配布するフードパントリーや炊き出し等の支援活動に有効に利用して下さるとのことです。組合員のたすけあいの仕組みが、少しでも困っている方々の役に立って欲しいと願っています。今後も息の長い支援を続けていきたいと思っています。（理事　石川佳名子）

● おだんごロックでマイナス 5 歳！笑顔が花咲くオンライン顔ヨガセミナーを開催

新型コロナウイルスの影響で、組合員同士集まって活動する事が難しい事を受け、7 月 27 日（月）インターネットツール・Zoom を利用したオンラインセミナーを 19 人の参加で開催しました。

今回テーマとして選んだ「顔ヨガ」とは、表情筋の筋トレのこと。笑顔もマスクに隠れてしまう今だからこそ、素敵な笑顔を取り戻し、リモートワークや STAY HOME の中で家庭が明るくなるようにという願いを込めて企画をしました。

講師の浅野道子先生の引き締まったお顔を拝見すると、顔ヨガってすごい！と期待が高まります。いざ顔ヨガのポーズを取ると、筋肉がピクピクして 1 分維持するだけでも大変です。後半は個別のお悩みを伺って、ポーズを指導していただきました。一人一人の様子を一度に見ていただけるのはオンラインならでは。しかも名前を呼びながら指導していただいた事で、心の距離がぐっと縮まりました。

今回初めて組合員活動に参加された方からは、「組合員の方のお顔も見ることが出来、楽しく受講出来ました」というメッセージを頂きました。物理的な距離は離れても、心の距離は離れないよう、工夫をしながら活動をしていきます。

（理事　後藤咲子）

会員生協だより

東北大学生協

● コロナの中で頑張る東北大生に安価に教科書を届けたい！

東北大学生協は、新型コロナウイルスの影響で経済的な影響を受けている東北大生を応援するため、初のクラウドファンディングを立ち上げました。

新型コロナウイルスの影響により、学生の生活は大きく変動しています。特に大学生活にかかる費用面の影響が大きく、「親の収入が減少し仕送りが減った」「アルバイトが制限され生活ができない」という切実な声が増えています。学生が食費や教材費を切り詰めなければ大学生活を送れない状況は、福利厚生を担う立場として見過ごせない事態になっています。

このような状況下において、私たちは、負担が大きいであろう教科書などの書籍を割り引くことで、少しでも学生の負担を減らしたいと考えました。しかしながら、東北大学生協も新型コロナウイルスの影響を受けており経営がとても厳しい状態です。そのため、クラウドファンディングを利用して皆様の力をお借りし、一緒に学生を支えたいと思いこのプロジェクトを立ち上げました。

目標額は 500 万円。目標を達成した場合は、東北大学生協の書籍の通常割引率 10%からさらに5%を足して、計15%の書籍値引きを行う予定です。（一部除外商品あり）

締切りは9月27日（日）までです。All-or-Nothing方式で、目標金額に満たない場合は、計画の実行およびリターンのお届けはございません。

これからの未来を創るのは、大学生をはじめとする若い世代です。彼らの過ごす未来が少しでも明るくなるように、皆様の力をお貸しください！

（専務理事　若柳恒太郎）

～ご協力をお願いします～

東北大学生協・クラウドファンディングに挑戦中！

詳しくは、以下のURLをご参照ください。
https://camp-fire.jp/projects/view/310777

▲8月27日（木）13:40 現在

★ご協力いただいた方へのリターンは、6つご用意しています。

- ➢1,000 円A⇒ お礼のお手紙＋食堂レシピ＋つぶグミ
- ➢1,000 円B⇒ お礼のお手紙＋食堂レシピ
- ➢5,000 円 ⇒ お礼のお手紙＋食堂レシピ＋つぶグミ＋普通カレー＋怒髪天カレー
- ➢10,000 円 ⇒ お礼のお手紙＋食堂レシピ＋普通カレー＋怒髪天カレー＋ミールレトルト×２
- ➢100,000 円 A⇒ お礼のお手紙＋食堂レシピ＋普通カレー30 個セット
- ➢100,000 円 B⇒ お礼のお手紙＋食堂レシピ＋怒髪天カレー30 個セット

★リターンの送付は11月を予定しています。

会員生協だより

東北学院大学生協

● 組合員に向けて Twitter 活動をおこなっています

現在、新型コロナウイルスの影響で顔を合わせて行う学生委員会活動ができなくなってしまいました。そこで、私たちはオンラインを利用しています。

今回は特に力を入れている Twitter 活動について紹介します。

Twitter 活動では、組合員がちょっとでも今の状況把握や学びができるように考えました。また、【自分たちでやってみたい】という意思から、組合員の現状やニーズを学ぶことができ、学生委員の学びにも繋がって行くと感じています。

今期の Twitter 活動では、『イマドキ健安アンケート』『うちで作ろう』『就職に関する情報』を発信してきました。

『イマドキ健安アンケート』は、「健康と安全推進」が考案し、週に一回投稿しています。生活習慣を把握し、数値を知ることで、組合員も学生委員もお互いに知ることができ、今後の呼びかけなどを考えることができました。

『うちで作ろう』では、一人暮らしをする際に役立つ料理を発信しています。また、今の STAY HOME 時期に料理を作ることで楽しさを増やせるように考えました。

今後の Twitter 活動では、『社会的ボード』『学びと成長による就職状況』なども発信する予定です。

（学生委員会　佐藤健人）

実際の Twitter 画面から　㊧「イマドキ健安アンケート」㊨「うちで作ろう」

会員生協だより

宮城教育大学生協

● 新型コロナウイルス感染症に関する緊急支援の取り組み

私たちは5月31日(金)より、日本ユニセフ協会のフレンドネーションに参加し、「大学生の私たちにできること『平和部局とともにコロナと戦おう』」というプロジェクトを立ち上げています。

この活動には2つの目的があります。1つ目は、世界的に深刻な問題となっているコロナウイルス感染症に関連した支援に関わることです。2つ目は、今まで当たり前に過ごしていた日常が一変したこの状況を、世界の社会問題と関連付けて考えることで自分事として捉えるきっかけとすることです。そして、組合員や私たちの情報発信を見てくれている方々の今後の平和活動への自主的な参加に繋げることです。

私たちはプロジェクトに対する応援や賛同の寄付を呼びかけると共に、週1回、宮教大生協学生委員会のTwitterにて動画やビラ画像でコロナウイルス感染症による国内・国外の社会問題についての発信活動を行なっています。

ただ情報を提供するのではなく、社会の課題に対する考え方のプロセスを学ぶ機会にするべく、今後の行動に活きるような問い掛けや活動の周知を内容に含むことを意識しています。

（学生委員会平和部局 CAP
長谷川あかり）

日本ユニセフ協会のフレンドネーションに参加し、立ち上げたプロジェクトページ。
https://friendonation.jp/fundingapp/projects/detail?project_id=12510
集まった募金はすべてユニセフを通じて、世界の子どもたちのために役立てられます。

平和部局がユニセフ手洗い部の「世界手洗いダンス」を発信した際の動画

● 新型コロナウイルスの影響に伴う大学生協職員の短期出向受け入れ報告

新型コロナウイルス感染症拡大により、生協の事業経営にも大きな影響が出ています。

コロナ感染症の影響で各大学では、大学のキャンパスが閉鎖されたり、上期はオンライン授業のみもしくはオンライン授業を中心にする大学が多く、キャンパス内で、物販や食堂、各種サービス事業を展開している大学生協にとって、通常通りの営業ができない状況になっています。

みやぎ生協では、新型コロナウイルスの影響で営業ができない大学生協職員を支援するため、東北大学生協、東北学院大学生協、宮城大学生協から、職員 39 人の出向を受け入れました。

大学生協事業連合東北地区より、新型コロナウイルスの影響で営業ができない大学生協職員について期限付きで出向の申し入れがあり、店舗の採用募集に合わせて希望店舗・部門・時間を調整しながらマッチング作業を行い、受け入れることとなりました。

東北大学生協では、コロナウイルス感染拡大防止により大学の講義が 8 月まではオンライン講義のみとなり学生が登校せず、営業ができる学内の店舗・食堂は一部となっています。供給が半減するとともに、定時職員 340 人中 200 人の職員に休業指示をしましたが、雇用契約維持の観点からは、就業する機会をつくることが必要となっています。

また、みやぎ生協では、雇用環境がきびしいことを背景に欠員状況があるなかで、業務量が増加しており、労働力不足となっています。短期的ではありますが、労働力不足解消の一助となるよう出向の受け入れを行いました。

大学生協の職員の皆さんには 6 月 18 日より順次、宮城県内の店舗ならびに多賀城ベジタブルセンターで勤務いただき、東北大学生協 36 人および宮城大学生協 1 人は 8 月 31 日まで、東北学院大学生協 2 人は 9 月 30 日までの予定で受入しました。

その後、大学のオンライン講義が続く見込みとなったため、条件の整う 26 人については、10 月 31 日まで勤務を延長することとしました。

当初、同じ生協とはいえ職種も違うこともあり不安もありましたが、受入店舗での配慮もあり、概ね順調に勤務いただいています。

みやぎ生協の受入店舗からは、「今まで身についていたものがしっかりできていて、挨拶もしっかりしています。作業もテキパキこなしています。みやぎ生協の職員もあたたかく接しています。」「順調に業務を覚え、頑張っていただいております。レジに配属された方は、事前の集合研修に参加し、みやぎ生協の教育体制が整備されていることに感心されていました。挨拶や応対も素晴らしく、継続して働いて頂きたい方です。」といった報告も届いています。

勤務初日、職場のルール学習と売り場商品の場所などを研修する大学生協職員

みやぎ生協　大学生協

大変厳しい状況のなか、協同組合間協同の取り組みを状況に合わせてすすめていきます。

（宮城県生協連専務理事
野崎和夫）

地産地消のとりくみ

地産地消とは、地域で生産されたものをその地域で消費することを意味する言葉です。消費者の食料に対する安全・安心志向の高まりなどを背景に、生協は地域の消費者ニーズに即応した生産と、生産された農林水産物を地域で消費しようとする活動を通じて、生産者と消費者が結びつく取組みであり、これにより、消費者と生産者とが『顔が見え、話ができる』関係で、地域の農林水産物・食品を購入する機会を提供するとともに、地域の農林水産業と関連産業の活性化を図っていくものです。

みやぎ生協

● めぐみ野宮城県産消提携推進協議会「第 36 回定期総会」

7 月 4 日（土）みやぎ生協文化会館ウィズにおいて、めぐみ野産消提携推進協議会「第 36 回定期総会」を開催しました。今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面議決書を優先し規模を縮小して開催しました。

「産直 めぐみ野」が 50 周年を迎えた今年は、津軽りんご組合、マリンフーズ株式会社、株式会社福島丸公、福島水産株式会社、全農福島県本部が、新たに加盟しました。

実践報告では、みやぎ仙南農業協同組合の櫻井正雄さんから『「めぐみ野」の復旧・復興の状況について』の報告がありました。昨年の台風 19 号の影響で、「めぐみ野」納豆の原料となる「小粒大豆」が例年の 1/5 しか収穫できなかったこと、丸森町で「めぐみ野」米の田んぼ 100ha が作付できなかったものの、例年通り作付できた田んぼの稲は茎数が増え、青々とした風景が広がっていること、被害を受けたハウスも復旧し作物の出荷が始まったことなどが報告されました。

株式会社仙台水産の廣澤一浩さんから、『「めぐみ野」商品取り扱い拡大の取り組みについて』が報告されました。廣澤さんからは、メンバー（組合員）のニーズをくみ取りながら、担当商務（バイヤー）と一緒に商品開発に取り組んだことなどが報告されました。

みやぎ仙南農協の櫻井さんからの報告

（産直推進本部事務局長
佐々木ゆかり）

● むすび丸も生産者を応援！宮城県主催「ほや消費拡大キャンペーン」

今年の「宮城県産ほや」は、新型コロナウイルス感染症の影響による飲食や観光の自粛で、販売数量が半減し、出荷価格が下落しました。あわせて 6 月の「ほや」の出荷海域の貝毒発生による出荷規制など、「ほや」に携わる生産者・加工・流通・販売事業者は、今までにない大きな痛手となりました。

だからこそ地元宮城の食文化を盛り上げる意味でも、みやぎ生協はメンバー（組合員）に、夏が旬で美味しい「ほや」をアピールし、販売促進につなげるために、7 月 16 日（木）～28 日（火）まで、みやぎ生協 49 店舗で宮城県主催の「ほやの消費拡大キャンペーン」に取り組みました。7 月 18 日（土）・7 月 19 日（日）には 4 店舗で、むすび丸と宮城県の担当者による推奨活動が行われました。

（水産商務　太宰朋仙）

メンバーに新鮮で美味しい「宮城県産ほや」をお勧めするむすび丸（幸町店）

平和のとりくみ

生協は、「平和とよりよき生活のために」をスローガンに掲げています。唯一の被爆国の国民として核兵器廃絶を訴えるとともに、戦争放棄をうたった憲法 9 条を含めた日本国憲法のよさと大事さを学び、話し合い、多くの人々が平和を守るネットワークへ参加する活動を広げていきます。

みやぎ生協

● オンライン開催「2020 ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ」への参加

被爆 75 年の節目の年にあたる今年、新型コロナウイル禍で被爆地広島・長崎で開催しているピースアクションに全国の生協から参集することは行わず、だれでも参加できる取り組みとして、オンライン開催での「2020 ピースアクション in ヒロシマ・ナガサキ」が企画されました。

みやぎ生協でもホームページや LINE などで参加を呼びかけ、ワークショップ型企画「被爆詩の朗読体験会」や、視聴型企画「デジタルアーカイブ等を活用した新たな継承学習会」、「ナガサキ虹のひろば」などへの参加などがありました。

ワークショップ型に参加した大学生の後藤香菜子さんは、グループワークで『弟』というタイトルの詩を朗読しました。

これまで広島、長崎に足を運ぶことができなかった方にとっても、自宅で被爆者のお話を聴き、被爆の実相を知ることで、平和について、核兵器廃絶の歩みについて考える貴重な機会になりました。

（生活文化部　昆野加代子）

「弟」を朗読する後藤さん

この詩は、作者が弟を助けられなかった後悔がつづられています。私は自分自身に兄弟がいないため、詩の中で出てくる弟を家族に置き換えて自分だったらどうするだろうと考えたりしていました。しかし、グループワークの中で詩の朗読を繰り返すうちに、後悔したという気持ちだけではなく、なぜ行動を出来なかったかなどの当時の状況について考えたりと、自分の視野が広くなっていくと感じることが出来ました。最後に全体で詩の朗読を発表しましたが、自分以外のグループを聞いた際にお題はもちろん違いますが、平和や広島について様々な人の視点から考えることが出来たのではないかと思いました。

終わりに、出演者の方から『今回はきっかけでこれからが始まり』という言葉を聞いて、自分自身の生活で微力ではあると思いますが、平和について少しでも考え行動をしていくことを始めたいと思いました。（後藤香菜子さんの感想）

● ヒバクシャ国際署名連絡会宮城の活動

被爆者の「生きているうちに核兵器のない世界の実現を」という願いにこたえるために、宮城県においても宮城県原爆被害者の会の呼びかけにこたえ、「ヒバクシャ国際署名連絡会宮城（以下、連絡会宮城）」が、2017 年 3 月に結成されました。宮城県生協連も事務局団体として参加し、2020 年 9 月末までを署名期間とする「ヒバクシャ国際署名」の呼びかけを行いました。

連絡会宮城では、8 月 21 日（金）を最後の「ヒバクシャ国際署名」街頭行動とし、9 月 30 日（水）の「ゴール集会」でいったん連絡会宮城としての活動に区切りをつけ、署名にご協力いただいた方々への御礼や報告を行う予定です。

今後は、新たな署名への呼びかけなどに対応できるよう、事務局機能を継続していくこととしました。

（常務理事　加藤房子）

街頭での署名活動の様子（8 月 21 日）

環境のとりくみ

生協の環境活動は、生協組合員の活動や事業における取り組みを通して、環境負荷の軽減と省エネルギー、省資源、リサイクルなどの環境保全型社会づくりに貢献していきます。組合員のライフスタイルの見直し、生産から流通・消費・廃棄までの製品のライフスタイルの各段階における環境負荷の低減等をすすめます。

みやぎ生協

● 配送に水素トラック実走実験を開始

みやぎ生協は、事業所間の書類や店舗間移動品等の配送に、燃料電池（FC）トラックを運用し、水素エネルギーの将来性について実証実験を行います。

燃料電池（FC）トラックは、トヨタ自動車株式会社様より、約 1 ヶ月間レンタルし、生協の共同購入事業で使う燃料電池トラック導入の検討に活かします。

（環境管理室課長　秋葉良広）

【検証目的】

2013 年比での CO2 削減目標を、日本生協連そしてコープ東北事業連合、みやぎ生協でも制定して取り組んでいます。施設等の CO2 削減は電力調達先を CO2 排出係数の低い電力へ切り替えることで　2019 年度では 55％まで削減できています。一方で宅配車輌の対策についてはバイオディーゼル車や電気自動車等を活用していますが、有効な対策とは言えない状況です。

今回レンタルする目的は、セブンイレブン用に開発した水素車両の予備車をトヨタ様のご厚意で 1 か月間ですがレンタルできることになりましたので、メール便等で実証試験を行い、生協版の水素トラック開発の検討を進めるためです。

【実証実験概要】

期間	2020 年 7 月 22 日(水)～8 月 30 日(日)
ご協力	＜水素充填＞イワタニ水素ステーション宮城仙台 様 ＜車両概要＞トヨタ自動車株式会社様 提供　3.5t 車
車両コース	仙台市泉区八乙女の本部から市内 13 事業所を回る往復約 50km。 途中、幸町の水素ステーションにて水素充填。

高圧水素タンクが3本搭載されています

イワタニ水素ステーション宮城仙台にて充填する水素トラック

消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城の活動

「消費税率引き上げをやめさせるネットワーク宮城（略称：消費税ネット）」は 2003 年に設立され、消費税率引き上げに反対する一点で集まった宮城県内の事業者・消費者の団体・個人のネットワークです。前身は、1978年に同じように商業者団体、市民・消費者団体など多数の幅広い団体が集って結成した「一般消費税を止めさせる宮城県民会議」です。
会員数は、団体 33、個人 65 です。（2020 年 3 月現在）

●「2020 年度消費税アップ反対川柳」の受賞作品が決定しました！

『消費税アップ反対！』の願いを込めた消費税川柳に、会員や県内外の多くの方々から過去最多となる 1,668 句のご応募をいただきました。

応募作品の中から世話人会において、入選作品 23 点を選出し、大賞作品 1 点、特別賞作品 2 点、入賞作品 10 点を決定しました。また、今年度は新たに「宮城県民賞」を設けて 10 点を選出しました。

今年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響のため、「仙台七夕まつり」が中止になりました。「消費税川柳」の吹き流し七夕の展示はできなくなりましたが、当ネットワークの HP 内に入賞者の作品を公表しました。

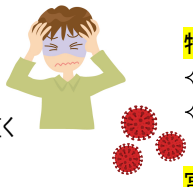
受賞者の方々に対しましては賞品の発送をもってご連絡させていただきました。

多くの方々からのご応募に、感謝いたします。

受賞作品

大　賞

税重く　景気も重く
気も重く



特別賞

✧増税と　コロナ失業　三重苦
✧増税の　悲劇コロナの　せいにする

入　賞

✧スピード感　持ってやります　増税は
✧増税は　重みわからぬ　人が決め
✧短冊に　Go To 減税　書き願う
✧どこに行く？　娘と税は　答えない
✧コロナ禍の　今こそ廃止　消費税
✧増税が　不要不急の　一番手
✧税取られ　遠のく店との　ディスタンス
✧財布にも　ステイホームと　言い聞かす
✧アメリカの　武器へと消える　増税分
✧税アップ　コロナともども　終息を

宮城県民賞

✧消費税　無限に離れろ　社会距離
✧増税後　週 5 に増えた　手弁当
✧増税で　買い物外食　我慢我慢
✧給付金　支払い消える　自営業
✧消費税　上げても国の　借金減らず
✧消費税　上がった分だけ　減る消費
✧消費税　上がれば下がる　心意気
✧減税の　願いは増える　七夕に
✧消費税　上がる分だけ　気が下がる
✧お断り　新型コロナと　消費税

●「国会へ私たちの声を届けよう！」の取り組み

内閣府が 8 月 17 日に発表した 2020 年 4～6 月期の国内総生産（GDP、季節調整済み）速報値は、物価変動の影響を除いた実質で前期比 7.8%減、この成長が 1 年続いた場合の年率換算で 27.8%減となりました。マイナス成長は 3 四半期連続。新型コロナウイルスの感染拡大が直撃し、リーマンショック後の 2009 年 1～3 月期（年率 17.8%減）を超える戦後最悪の下落を記録しました。

私たちが、消費者のくらし、事業者の経営、日本経済への影響を懸念し、消費税率引き上げに反対してきたにも関わらず、2019 年 10 月に消費税率が 10%に引き上げられました。新型コロナウイルスによる影響とあわせ、日本経済に深刻な影響が出てきており、私たちのくらしはますます厳しさを増しています。

諸外国 10 か国以上では、新型コロナウイルスの感染拡大で、低迷した経済の景気刺激策として、付加価値税（日本の消費税に相当）を減免する政策をすすめています。

『消費税増税 STOP』の声など、私たちのくらしを守るための一言を、9 月末に、内閣総理大臣、財務大臣、衆参議院議長、県選出国会議員あてに提出いたします。（事務局　加藤房子）

消費税ネット　〒981-0933 仙台市青葉区柏木 1-2-45 フォレスト仙台 5F　TEL 022(276)5162　FAX 022(276)5160
URL http://kenren.miyagi.coop/katudou/vat/activity.html

NPO 法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎの活動

私たちは、いつでも、だれでも安心して暮らせる社会をめざしています。私たちは知識と力を合わせ、良質な介護・福祉サービス提供と健全な事業運営のために、いっそうの研修にはげむとともに、情報を共有し、ネットワークをひろげます。もって子どもから大人まですべての人の人権が尊重されるまちづくりと、地域住民の福祉向上に資することをNPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ（略称：介護・福祉ネットみやぎ）の目的としています。会員数は正会員 18 団体、個人正会員 19 人、団体賛助会員 3 団体、個人賛助会員 57 人です。（2020 年 4 月現在）

● 介護現場に対する新型コロナウイルス感染症に係る要望活動のまとめ

要望活動に至る経過

3 月 24（火）開催の介護・福祉ネットみやぎ理事会において、介護の現場におけるマスクと消毒用アルコール不足の状況について情報が共有化されました。

当時は医療崩壊の危機が叫ばれておりましたが、介護現場の深刻な状況についてはマスコミではあまり報道されていませんでした。このような中、当法人では『新型コロナウイルスに関する緊急アンケート－介護事業所における日常的な衛生用品（マスク・消毒液・介護用手袋）の在庫状況について－』を実施。

アンケートからは、介護現場における衛生用品の不足状況とともに、感染リスクのなかで介護サービスを提供し続けるうえでの問題が明らかとなりました。

このアンケート結果をもとに、国・宮城県・仙台市に要望書を提出しました。

要望活動のまとめ

宮城県は、私たちの要望項目について、可能な取り組みと改善を行いました。

仙台市は、「仙台市コロナウイルス感染症緊急対策プラン」において、要望項目に対応する予算措置を行っています。

国に対する要望項目については、第 2 次補正予算にあらかた盛り込まれました。当法人の要望書も、「国の第 2 次補正予算における介護事業所の支援の予算措置」につながる一助となったものと確信しています。

また、宮城・東北選出国会議員、宮城県議会議長・各会派、仙台市議会議長・各会派に要望書とアンケートの集計結果を送付し、介護職員の生の声を伝えることができたことは意義深いことです。

（事務局長　渡辺淳子）

宮城県・仙台市への要望項目

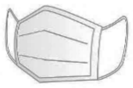
1. 衛生備品（使い捨てマスク、消毒用アルコール液、介護用手袋、使い捨てエプロンなど）の調達支援について
2. 介護事業所が行なう新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者への介護サービス提供時の対応について
3. 厚生労働省事務連絡の周知の徹底と分かりやすい情報提供について

宮城県/要望書提出及び懇談日　4 月 24 日（金）
仙台市/要望書提出日　4 月 30 日（木）

国への要望項目

1. すべての介護サービス事業所にも必要に応じて衛生備品（使い捨てマスク、消毒用アルコール液、介護用手袋、使い捨てエプロンなど）やパルスオキシメーターなど必要な備品を優先配布する仕組みを構築すること
2. 濃厚接触者や感染リスクが高い高齢者を支える介護職員への臨時手当の支給や、感染症予防徹底のために負担が増えている介護事業所へ早急に介護報酬を引き上げるなど経済的支援を行うこと
3. 症状の有無にかかわらず医師が感染を疑う場合には、介護職員、介護サービス利用者ともすみやかに検査を受けることができるようにすること

国/要望書提出日（送付）　5 月 18 日（月）



NPO 法人　介護・福祉ネットみやぎ
〒981-0933 仙台市青葉区柏木 1-2-45　フォレスト仙台 5F　TEL 022-276-5202　FAX 022-276-5205
E メール　sn.mkaigonet2@todock.coop　URL　https://www.kaigonet-miyagi.jp/index.html

適格消費者団体 認定ＮＰＯ法人消費者市民ネットとうほくの活動

認定 NPO 法人消費者市民ネットとうほく（略称：ネットとうほく）は、消費者被害の未然・拡大防止及び救済のため、消費者や消費者団体・関係諸機関・消費者問題専門家等と連携し、各種消費者被害の調査・研究・情報収集、是正申入等の活動によって、消費者全体の利益擁護、消費者の権利の確立に寄与することを目的に活動している内閣総理大臣認定の適格消費者団体です。

● 2020 年度「第 2 回ネットとうほく消費者被害事例ラボ」～ニセ科学について～

講師の天羽優子山形大学准教授

7 月 6 日（月）18 時 30 分から、仙台弁護士会館において、2020 年度「第 2 回消費者被害事例ラボ」を開催し、学識者、弁護士、消費生活相談員など、22 人が参加し、コロナウイルス感染拡大防止対策として、WEB 会議システムを利用し、内 6 人が WEB 参加しました。今回は、「ニセ科学について」をテーマに、山形大学理学部天羽（あもう）優子准教授が解説しました。

健康によいという根拠のないマイナスイオン商品など、科学的な用語を駆使して、いかにも効果があるかのようにアピールし、『アトピーが治る』『がんにならない』『がんが治る』など病気がらみで不安心理をあおって、つけ込み、科学っぽい雰囲気を出し、効果的な体験談で粉飾された健康情報が、テレビや新聞・雑誌などで消費者が目にする機会が多くなっています。事前に宣伝内容が科学的根拠のないことに気がつけば、消費者被害を防ぐことができます。買ったものが間違った宣伝によるものだとなると、契約解除や返金の理由になるが、ニセ科学宣伝によるものという証明は難しいことがあるとのことです。

意見交換では、サプリメントの CM が多く、消費者が客観的に判断するのは難しい状況ではないか、きちんと規制したら深刻な状況にならないか。やはり、消費者が声を上げないと健全にはならないのではないか。消費者庁に届け出て、認可が下りたものでも怪しむ必要があるのではないか。また、効果効能について、不実告知に当たらないか等の意見が出されました。

（事務局　金野倫子）

＜コロナ関連　消費者トラブル情報＞

国民生活センターには、新型コロナ感染症に関連し、便乗した様々な消費者トラブルが報告されています。例えば……。

- 市の新型コロナウイルス対策室を名乗り、個人情報を聞き出す不審な電話を受けた。
- 携帯電話会社名で、新型コロナウイルス関係の助成金を配布するとのメールが届いた。
- 自宅の固定電話に、「新型コロナウイルスの検査が無料で受けられる。マイナンバーが必要。これから自宅に行く」という電話があった。

怪しい電話や訪問、心当たりのない送信元からのメール等、怪しい、おかしいと思うものには反応しないようにしましょう。今後、新たな手口で勧誘が行われる可能性もあります。少しでもおかしいと感じたら、最寄りの消費生活センターに相談をしましょう！（電話番号：188 いやや）

講演会のご案内

「ネット広告やアフィリエイト広告の仕組み」

～悪質なネット広告の見極め方と対応方法～

講師／笠 井 北 斗 さん

（一般社団法人　日本アフィリエイト協議会代表理事）

- ▶日時：2020 年 10 月 2 日（金）18：30～20：30
- ▶会場：仙台弁護士会館　4階ホール　▶定員：100 人
- ▶お問合せ：ネットとうほく事務局まで　▶参加費：無料

※講演会では、希望者は WEB 会議システムを利用し参加できるよう対応いたします。

「アフィリエイト」とは・・・
成果報酬型の広告。自身のホームページやブログ記事に、企業や特定の商品・サービスの広告を掲載し、ユーザーが広告をクリックし商品などを購入すると、広告者の利益になり、成果報酬が収入となる仕組み。

適格消費者団体
認定 NPO 法人
消費者市民ネットとうほく

〒981-0933 仙台市青葉区柏木 1-2-40 ブライトシティ柏木702号室
TEL 022-727-9123　FAX 022-739-7477　E メール shiminnet-tohoku@triton.ocn.ne.jp
URL https://www.shiminnet-tohoku.com/

宮城県ユニセフ協会の活動

ユニセフ(UNICEF:国際連合児童基金)は、世界の子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関です。 2011 年 4 月 1 日より「公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織 宮城県ユニセフ協会」と名称が変更になりました。県内唯一の団体としてユニセフの広報・啓発・募金・学習支援などを活発に展開しております。(設立:1995 年 会員数:一般・学生 161 人 団体 6)

● もったいないばあさんのワールドレポート展を県内 3 カ所で開催します

2020 年は、宮城県ユニセフ協会設立 25 周年です。

そこで今年は、「もったいないばあさんのワールドレポート展～地球の問題と世界の子どもたち～」というテーマで、パネル展と絵本「もったいないばあさん」の作家である真珠まりこさんの講演会を開催します。

「もったいないばあさんのワールドレポート展」は、地球で起きている問題と、私たちの暮らしとのつながりを伝えるパネル展示会です。

いま地球の上では、さまざまな問題が起きています。気候変動、森と生きものがきえる問題、食料と水の不足、戦争、難民、子どもたちが働かされている問題、貧困、格差など、なぜこのような問題が起きているのか、そして、私たちとの暮らしとどのようにつながっているのかを考える内容となっています。

命の大切さを伝える「もったいない」という言葉と、もったいないばあさんのメッセージをみて、家族で話し合うきっかけになればと考えています。

どうぞ、気軽に足を運んでください。

(事務局長　大友千佳子)

パネル展「もったいないばあさんのワールドレポート展」10 時～16 時

みやぎ生協加賀野店メンバー集会室	9 月 23 日（水）、24 日（木）
みやぎ生協榴岡店メンバー集会室	9 月 26 日（土）、27 日（日）
みやぎ生協大河原店メンバー集会室	9 月 29 日（火）、30 日（水）

ユニセフのつどい 2020 in みやぎ

真珠まりこ講演会

もったいないばあさんのワールドレポート
～地球の問題と世界の子どもたち～

日時：2020 年 10 月 17 日(土)13：30～15：00
会場：仙台市福祉プラザ

100 人限定のため事前予約が必要です。
9/30(水)締め切りで、当選者にのみハガキでお知らせします。お申し込みは、ハガキか FAX のみとなります。詳しくは宮城県ユニセフ協会のホームページをご覧ください。

topic

みやぎ生協が「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)緊急募金」！

日本ユニセフ協会からの呼びかけに答えて、みやぎ生協ではお預かりしているユニセフ募金から「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)緊急募金」として、7 月に 50 万円募金しました。

新型コロナウイルス感染症によって、命を守る予防接種サービスが中断し、富裕国、貧困国を問わず世界の何百万人もの子どもたちがジフテリア、はしか、ポリオなどにかかるリスクにさらされています。ユニセフは緊急募金によりワクチン、医療機器、医療用マスクなどの感染予防のための物資を輸送し、命を守る支援を続けています。

宮　城　県
ユニセフ協会
〒981-3194 宮城県仙台市泉区八乙女 4-2-2 みやぎ生協 A 棟3F TEL 022-218-5358 FAX 022-218-3663
E メール sn.municef_miyagi@todock.coop URL https://www.unicef-miyagi.gr.jp/

公益財団法人　ＭＥＬＯＮの活動

公益財団法人みやぎ･環境とくらし･ネットワーク Miyagi Environment Life Out-reach Network）ＭＥＬＯＮは、みやぎ生協 ･JA 宮城中央会 ･県漁協 ･県森連 ･日専連の県内で活動する協同組合が中心となって設立され、1995 年 12 月に財団法人化し、2012 年 2 月より公益財団法人に移行しました。ＭＥＬＯＮは、緑と水と食とを通して地球と地球環境保全の活動を行なっています。会員数は個人 449、法人 55 団体、任意団体 10 団体です。合計 514 です。（8/3 現在）

● キリバス共和国を題材に環境問題を伝える番組と学習プログラムを展開します！

現在、仙台市在住のケンタロ・オノさんは、高校生の時にキリバスに留学し、キリバスの自然や人の暖かさに魅せられキリバスに帰化しました。太平洋の島国キリバス共和国は、気候変動の影響で沈む可能性があると言われています。

東日本大震災を契機に帰国したキリバス人のケンタロ・オノさんと MELON は、3 年前からキリバスを題材にして小・中学校へ環境出前講話を実施してきました。

7 月に、一般社団法人日本キリバス協会（代表理事ケンタロ・オノさん）と MELON の共同で、YouTube チャンネル「ケンタロ・オノのキリバス物語」を立ち上げ、共同管理を始めました。気候変動によるキリバスの危機的状況について、子ども世代を中心に伝えていきます。

それと同時に、キリバスを通じて日本や世界における様々な課題と、課題同士のつながり、SDGs について学び、自分たちの足元から行動を起こしていける将来世代を育むことを目的としています。

このチャンネルは「キリバス環境出前講話」とも連携しており、今後 MELON のシンボルとなる活動に育てていくことをめざしています。

また今後、『キリバス SDGs 学習プログラム』を展開する予定です。

様々な環境団体が行ってきた出前授業を 1 回のみのイベントで終わらせるのでなく、学習指導要領や教科書、学校のカリキュラムの中に位置付けることで持続可能な学習となり、環境問題に対応して求められる子どもたちの資質・能力を育てることになると思います。学校現場で教師が多忙を極めている昨今、MELON が積極的に学習活動に協力していきたいと考えています。

内容的には、「キリバス環境出前講話」を小学校 6 年生の学習プログラムとして編成しました。今年 4 月から全面実施となった小学校学習指導要領で示された「持続可能な社会の創り手を育てること」を目標とし、講話をきっかけとして子どもたちが SDGs について調べ、自分にできる行動を考えるという内容を、複数の教科等の中で横断的に学習するという画期的なプログラムとなっています。先生方が取り組みやすいように、指導案やワークシート、さらには、前述の YouTube チャンネル「ケンタロ・オノのキリバス物語」など、学習に必要なものをパッケージ化しています。

（事務局統括　小林幸司）

MELON 事務局　〒981-0933 仙台市青葉区柏木 1-2-45 フォレスト仙台 5F　TEL 022-276-5118　FAX 022-219-5713
Eメール melon@miyagi.jpn.org　URL https://www.melon.or.jp/melon/index.htm